



平成29年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成29年2月10日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社アイデアインターナショナル
コード番号 3140 URL <http://www.idea-in.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 森 正人
問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営情報部長 (氏名) 松原 元成

TEL 03-5446-9505

四半期報告書提出予定日 平成29年2月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年6月期第2四半期の業績(平成28年7月1日～平成28年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年6月期第2四半期	3,315	8.6	88	55.5	44	53.3	34	31.6
28年6月期第2四半期	3,052	4.3	57	△40.6	28	△7.9	26	873.4

	1株当たり四半期純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	
	円 銭		円 銭	
29年6月期第2四半期	5.75		—	
28年6月期第2四半期	4.40		—	

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年6月期第2四半期	3,914		654		16.7	
28年6月期	3,633		617		16.7	

(参考)自己資本 29年6月期第2四半期 654百万円 28年6月期 606百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					合計
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	円 銭	
28年6月期	—	0.00	—	0.00	0.00	0.00
29年6月期	—	0.00	—	0.00	0.00	0.00
29年6月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年6月期の業績予想(平成28年7月1日～平成29年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	7,616	23.6	264	44.4	198	33.8	188	△27.1	31.67

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

29年6月期2Q	6,138,675 株	28年6月期	6,134,700 株
29年6月期2Q	187,344 株	28年6月期	187,344 株
29年6月期2Q	5,947,896 株	28年6月期2Q	5,899,656 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビューの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表の監査手続を実施しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

平成29年6月期第2四半期累計期間(平成28年7月1日～平成28年12月31日)の業績は、前年同期(平成28年6月期第2四半期累計期間)の業績に比べて、売上は3,315百万円と263百万円の増収となりました。経常利益は44百万円と15百万円の増益となり、四半期純利益も34百万円と8百万円の増益となりました。

売上については、インテリア雑貨において、キッチン雑貨を中心としたインテリア商品ブランド「ブルーノ」が好調に推移し、中でもデザイン性に優位性のある「ホットプレート」は引き続き売上を伸ばしており、「セラミックコート鍋」等のホットプレートのオプション商品も計画を上回る売上となりました。またトラベル商品ブランド「ミレスト」も前期に比べて直営店が増加したことにより、売上を伸ばし、売上高は3,315百万円(前年同期は3,052百万円)となりました。

利益については、今期は商品認知率を高める戦略に基づき、前期よりも大幅に広告宣伝費を投入していますが、前年同期よりも自社商品売上比率が高くなり、粗利率が44.6%(前年同期は42.6%)と大きく改善したことにより、営業利益は88百万円(前年同期は57百万円)、経常利益は44百万円(前年同期は28百万円)、四半期純利益は34百万円(前年同期は26百万円)となりました。

セグメントの業績は以下のとおりであります。

住関連ライフスタイル商品製造卸売事業においては、前述の通り、ホットプレート等のキッチン家電を中心としたインテリア商品ブランド「ブルーノ」等自社商品ブランドの売上が好調に推移したことで、売上高2,087百万円(前年同期は1,863百万円)、営業利益は459百万円(前年同期は231百万円)となりました。

住関連ライフスタイル商品小売事業においては、8月にルミネ池袋にインテリア雑貨ショップ「アイデアセブンスセンス」を出店、また広告宣伝により販売強化を進めているEコマースにおいて売上が前期よりも上回ったことから、売上高1,228百万円(前年同期は1,188百万円)と増加しました。営業利益については、Eコマースに関しては前述の通り戦略的に広告宣伝費を投入していることから、43百万円(前年同期は120百万円)となりました。

今後はインテリア雑貨ショップ「アイデアセブンスセンス」＋トラベルショップ「ミレスト」、またはインテリア雑貨ショップ「アイデアセブンスセンス」＋オーガニックショップ「テラクオーレ」等の複合型店舗を中心に積極的に出店を加速化し、また戦略的に広告宣伝を投入しEコマース販売強化を行うことで、より粗利率の高い販路の売上拡大を図り、粗利率の向上に取り組んでいきます。またR I Z A Pグループとのシナジーを最大限に活用することで、増収増益を果たす所存であります。

(2) 財政状態に関する説明

1. 財政状態の分析

当第2四半期会計期間末における総資産の残高は、3,914百万円(前事業年度末は3,633百万円)となり、280百万円増加しました。

流動資産は、3,443百万円(前事業年度末は3,186百万円)となり、257百万円増加しました。これは現金及び預金の減少(19百万円)等があったものの、商品及び製品の増加(101百万円)、受取手形及び売掛金(純額)の増加(99百万円)及びその他の増加(79百万円)等があったことによるものであります。

固定資産は、470百万円(前事業年度末は446百万円)となり、23百万円増加しました。これは無形固定資産の減少(3百万円)があったものの、有形固定資産の増加(22百万円)及び投資その他の資産の増加(4百万円)があったことによるものであります。

流動負債は、2,782百万円(前事業年度末は2,463百万円)となり、319百万円増加しました。これは支払手形及び買掛金の増加(130百万円)、短期借入金の増加(64百万円)、引当金の増加(12百万円)及びその他の増加(113百万円)等があったことによるものであります。

固定負債は、476百万円(前事業年度末は551百万円)となり、74百万円減少しました。これは長期借入金の返済による減少(57百万円)、リース債務の減少(7百万円)及びその他の減少(10百万円)等があったことによるものであります。

純資産は、654百万円(前事業年度末は617百万円)となり、36百万円増加しました。これは新株予約権の減少(11百万円)があったものの、利益剰余金の増加(34百万円)及び繰延ヘッジ損益の増加(10百万円)等があったことによるものであります。

2. キャッシュフローの状況の分析

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、前事業年度末の残高912百万円に対して19百万円減少し、893百万円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は44百万円(前年同期は25百万円)となりました。

これは、売上債権の増加(99百万円)、たな卸資産の増加(97百万円)及び新株予約権戻入益(11百万円)等による資金の減少があったものの、税引前四半期純利益(54百万円)、仕入債務の増加(130百万円)、減価償却費(36百万円)及びその他(34百万円)等の資金の増加があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は66百万円(前年同期は47百万円)となりました。

これは、有形固定資産の取得による支出(65百万円)等による資金の減少があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は0百万円(前年同期は15百万円の使用)となりました。

これは、長期借入金の返済による支出(136百万円)等による資金の減少があったものの、長期借入れによる収入(100百万円)及び短期借入金の純増(43百万円)等による資金の増加があったことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、平成28年8月10日の決算短信で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成28年6月30日)	当第2四半期会計期間 (平成28年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	912	893
受取手形及び売掛金(純額)	666	765
商品及び製品	1,061	1,163
仕掛品	26	25
原材料及び貯蔵品	77	74
その他	441	520
流動資産合計	3,186	3,443
固定資産		
有形固定資産	231	254
無形固定資産	49	46
投資その他の資産	165	169
固定資産合計	446	470
資産合計	3,633	3,914
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	382	513
短期借入金	1,798	1,863
未払法人税等	3	1
引当金	18	30
その他	260	374
流動負債合計	2,463	2,782
固定負債		
長期借入金	413	356
リース債務	72	65
受入保証金	29	28
引当金	2	3
その他	33	22
固定負債合計	551	476
負債合計	3,015	3,259
純資産の部		
株主資本		
資本金	78	79
資本剰余金	386	388
利益剰余金	223	257
自己株式	△82	△82
株主資本合計	606	643
評価・換算差額等		
繰延ヘッジ損益	—	10
評価・換算差額等合計	—	10
新株予約権	11	—
純資産合計	617	654
負債純資産合計	3,633	3,914

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期累計期間 (自平成27年7月1日 至平成27年12月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成28年7月1日 至平成28年12月31日)
売上高	3,052	3,315
売上原価	1,752	1,835
売上総利益	1,299	1,480
返品調整引当金戻入額	6	5
返品調整引当金繰入額	5	6
差引売上総利益	1,301	1,479
販売費及び一般管理費	1,243	1,390
営業利益	57	88
営業外収益		
その他	3	2
営業外収益合計	3	2
営業外費用		
支払利息	13	14
株主関連費用	12	25
その他	6	6
営業外費用合計	31	46
経常利益	28	44
特別利益		
新株予約権戻入益	—	11
特別利益合計	—	11
特別損失		
固定資産除却損	—	1
減損損失	1	—
その他	0	0
特別損失合計	1	1
税引前四半期純利益	27	54
法人税等合計	1	20
四半期純利益	26	34

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期累計期間 (自平成27年7月1日 至平成27年12月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成28年7月1日 至平成28年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	27	54
減価償却費	27	36
減損損失	1	—
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	1	0
支払利息	13	14
新株予約権戻入益	—	△11
売上債権の増減額 (△は増加)	26	△99
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△20	△97
仕入債務の増減額 (△は減少)	△31	130
その他	△0	34
小計	44	62
利息及び配当金の受取額	0	0
利息の支払額	△12	△15
法人税等の支払額	△6	△3
営業活動によるキャッシュ・フロー	25	44
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△53	△65
無形固定資産の取得による支出	△2	△0
敷金及び保証金の差入による支出	△0	△4
その他	9	2
投資活動によるキャッシュ・フロー	△47	△66
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	50	100
短期借入金の純増減額 (△は減少)	21	43
長期借入金の返済による支出	△80	△136
その他	△5	△7
財務活動によるキャッシュ・フロー	△15	0
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	3
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△37	△19
現金及び現金同等物の期首残高	589	912
現金及び現金同等物の四半期末残高	552	893

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第2四半期累計期間(自 平成27年7月1日 至 平成27年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、平成27年9月29日開催の定時株主総会に基づき、繰越利益剰余金の欠損補填を目的として、資本準備金270百万円をその他資本剰余金へ振り替えております。また、その他資本剰余金976百万円を繰越利益剰余金に振り替えております。

当第2四半期累計期間(自 平成28年7月1日 至 平成28年12月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間(自 平成27年7月1日 至 平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント			その他 (百万円) (注) 1	合計 (百万円)	調整額 (百万円) (注) 2	四半期 損益計算書 計上額 (百万円) (注) 3
	住関連ライ フスタイル 商品製造卸 売事業 (百万円)	住関連ライ フスタイル 商品小売事 業 (百万円)	計 (百万円)				
売上高							
外部顧客への売上高	1,863	1,188	3,052	—	3,052	—	3,052
セグメント間の内部売上高 または振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	1,863	1,188	3,052	—	3,052	—	3,052
セグメント利益	231	120	352	—	352	△295	57

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、オフィス・店舗空間のコンセプト・デザインを企画する空間プロデュース事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△295百万円は、各報告セグメントに配分していない当社の管理部門に係る費用であります。

3 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「住関連ライフスタイル商品小売事業」セグメントにおいて、1百万円の固定資産減損損失を計上しております。

II 当第2四半期累計期間(自 平成28年7月1日 至 平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント			その他 (百万円) (注) 1	合計 (百万円)	調整額 (百万円) (注) 2	四半期 損益計算書 計上額 (百万円) (注) 3
	住関連ライ フスタイル 商品製造卸 売事業 (百万円)	住関連ライ フスタイル 商品小売事 業 (百万円)	計 (百万円)				
売上高							
外部顧客への売上高	2,087	1,228	3,315	0	3,315	—	3,315
セグメント間の内部売上高 または振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	2,087	1,228	3,315	0	3,315	—	3,315
セグメント利益	459	43	502	—	502	△414	88

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、オフィス・店舗空間のコンセプト・デザインを企画する空間プロデュース事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△414百万円は、各報告セグメントに配分していない当社の管理部門に係る費用であります。

3 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。